

三省堂中学国語教育 ことばの学び

No. 6

俳句の世界をうわぎ味

- コラム 俳句における「間」
長谷川 権

○授業展開アイデア
「俳句の世界／俳句十句」

俳句における「間」



俳人／「間の文化」*筆者
長谷川 樞

俳句誕生の背景

「家は夏向きに作るのがよい」——兼好法師は『徒然草』の中でこう言っています。

はじめじめして蒸し暑い夏は、ユーラシア大陸のいちばん東に位置し、海に囲まれた日本がもつ特徴的な気候です。夏をいかに過ごすかを日本人は昔から真剣に考えてきました。兼好法師のこの言葉は、家の作りのみならず、日本の文化全体にかかわるものでした。

日本は大陸から伝わる文化的なものを取捨選択して取り込んできましたが、そのなかで「暑苦しい」ものはことごとく捨て去られています。日本人にとって「涼しげなもの」でなければ文化としては根づかなかつた。

例えば、仮名文字。中国から伝えられた文字、すなわち漢字を日本人も書き言葉に用います。『万葉集』ももともとは全部漢字

で書かれていました。漢字ばかりがずらりと並びます。それはものすごく暑苦しいわけです。もつと涼しげな文字がほしくなる。漢字を簡略化したものでないと、日本人としてはとても耐えられない。そう考えたかどうかではなくて、文化の志向がそうなっているんです。そうして仮名が生まれた。

日本の初期の書、例えば空海の書も、中國の文献のように漢字がきちつと並んでいました。時代が経つくると、小野道風のように横のラインが崩れていきます。字と字の間にたくさんの空白をつくって、一つの歌を書いていくことが主流になつてくるんですね。書における「間」が生まれてくる。今も、俳句や和歌の書は、そのように書かれます。

絵画も同様。中国は基本的にリアリズムの国ですから、木一本からラクダの脚まで克明に描きます。西洋の絵も、空白があると未完成な絵として扱われてしまします。セザンヌの絵は塗り残した部分が多いので、長い間、未完の絵とみられてきました。

ところが、日本人の絵は、描きたいものを描き、周りは空白のまま残してお。長谷川等伯の松林図屏風***がそうですね。



家ブリューゲルは家並みを克明に描きます。日本人はすべて描くことはない。例えば、京都の町の中に「金の霞」という雲を描きます。実景にはない空白——「間」を描いて、日本人はやつと落ち着く。落ち着くとは、涼しい感じがすることです。

音楽や建築も同じ。こうやって「涼しげな」方向へ文化が創られてきました。

詩歌も例外ではありません。長々と言葉を使うのではなくて、短く言えればそれによ越したことはない。言葉は人と人をつなぐもの。心が常に繋がる、相手のことが常にわかるというのは「暑苦しい」ことなんですね。遠ざけておけば、暑苦しくはない。これが日本人の言葉に関する感じ方です。

* 現代の国語3（三省堂・2016）所収の評論教材 p.20-26

** 現代の国語3（同上）p.24に図版掲載

日本人の言葉への向き合い方、コミュニケーション

ケーションのあり方は、大陸の国々とはずいぶん異なります。大陸では言葉の違う民族が接します。文化様式が異なる人々が行ったり来たり、通商や戦争、常にいろいろな民族が接します。相手の考え方をきちんとくみ取つたり、自分の考えを伝えたりするには、互いに言葉を尽くして、自分の考えを説明し、相手の言うことも聞く。

これが大陸的なコミュニケーションのあり方です。

これに対して、日本は同じ日本語なので、方言があつてもだいたい通じてしまします。

俳句は、五七五の十七拍（音）が全部言葉で埋まっているように見えますが、句の前後とその句の中には、膨大な空白、言い換えれば「間」があります。

その「間」を生み出すのが「切れ」。「切れ」によつて言葉を切斷して、涼しげにつくつしていく。そして「これだけ言えば、あとはわかりますよね」と。これが俳句の基本的な考え方です。

「古池や」とここで刻むことで、「蛙飛び込む水の音」との間に「間」が生まれる。

その深い「間」によつて、単に「古池に蛙が飛び込んで水の音がした」というのではなく、蛙が飛び込む音によつて芭蕉の心に浮かんだ「想像上の古池」と「現実の水音」という次元の違う二つのものが響きあつて、詩の世界が立ち上がつてくる。*

文化様式も互いに似通つてゐるので、詳しいところまで説明しなくともいいのではないか、わかりあえるのではないかと考える。実際にわかりあえているかはわからないけれども、そういう考え方方が日本の詩歌の背景としてあつた。このような気候風土、文化や考え方のなかで、俳句も誕生してくるわけです。

「切れ」と「間」

この「古池や」の「や」を「切れ字」といいます。しかし、「切れ」は必ずしも切れ字を必要としません。これはあまり教えられないことがあります。しかし、「切れ字」を使わなくとも俳句は切れます。

山口素堂の「目には青葉山ほととぎす初鰯」には切れ字が一つも使われていません。名詞をぽんぽんぽんと並べているだけですが、「目には青葉／山ほととぎす／初鰯」と、句の中が三つに切れています。名詞に限らず、俳句ではすべての言葉は「切れ」を生み出すことができる。そのなかで「切れ」を生むために特別の使命を負つた言葉が切れ字です。

先に、俳句は句の前後とその句の中に「間」があるとお話ししましたが、俳句の「切れ」といえば、「古池や」「目には青葉」「などの「切れ」、すなわち句の中の「切れ」のみ目が向かれてきました。句の前後の「切れ」については、「一億人の「切れ」入門」**を出す前までは、俳人の間でもほとんど注

古池に蛙は
飛びこんだか
長谷川 横

芭翁の名句を読み解く
古池の音は古道の音。山ほととぎすの音は初鰯の音。この両音は同じものとも思えず、音楽の音を重ねた、両者の音色を並べた。音楽的芭翁詩。

古池に蛙は飛びこんだか
一億人の「切れ」入門
長谷川 横
角川俳句ブックラボ
芭翁の名句を読み解く
「切れ」とは？
芭翁の芭翁詩を読み解く

*『古池に蛙は飛びこんだか』(花神社・2005)、『俳句の誕生』(筑摩書房・2018) 参照
**『一億人の「切れ」入門』(角川学芸出版・2012)



置く」と書く。芭蕉のなかでは、俳句の前後で心のスイッチが切り替わっている。日常の心から俳句の心へ、俳句の心から日常の心へという、心の調子の切り替わりが、俳句の前後の「切れ」を生み出します。

散文は説明や理屈の世界。理屈は言葉のなかでも最も暑苦しいもの。この「切れ」によつて「間」が生まれ、その「間」によってこそ、俳句は俳句として、理屈から切り離された詩の世界をつくりあげることができる。

目されてこなかったものです。句の「前後で切れる」とはどういうことか。

例えば、『おくのほそ道』では、文章があつて、俳句があつて、また文章がある。文章と俳句がひと続きに書かれたように見えます。しかし、文章は論理、俳句は直観によつて生まれるものですから、文章と俳句の間には見えない断絶があるわけです。直観による俳句の刃が、文章の論理の糸を断ち切つている。これが句の前後の「切れ」です。

「月日は百代の過客にして……住めるかた

は人に譲りて、杉風が別墅に移るに」と論理の頭で書いてきて筆をおき、ここで詩の頭に切り換えて、「草の戸も住み替はる代ぞひなの家」と詠む。そして俳句を書き終えると再び論理の頭に戻つて「面八句を庵の柱に懸け

『伊勢物語』は歌物語といわれますが、地の文があつて歌があり、地の文は歌が詠まれた状況を説明しています。『源氏物語』も同様で、地の文として登場人物の現実の生活を描いていきながら、そのなかで歌が詠まれます。どちらの作品においても、歌の前後には「切れ」が隠れています。『おくのほそ道』は、ずっと以前からある、こうした歌物語の伝統を引いているわけです。

PROFILE

はせがわ・かい

俳人。「季語と歳時記の会（きごさい）」代表、東海大学特任教授。朝日俳壇選者。1954年、熊本県の生まれ。東京大学法学部卒業、読売新聞記者を経て俳句に専念。1993年、俳句結社「古志」を創刊。句集に『虚空』『唐津』『柏餅』など、歌集に『震災歌集』、評論に『俳句の誕生』『俳句の宇宙』『和の思想』『日本人の暦』『一億人の季語入門』『「奥の細道」をよむ』などがある。

ウェブサイト
「一億人の俳句入門」<http://gokoo.main.jp/>

そうではなく、「なぜ俳句には切れ字というものがあるのか」という問い合わせです。このことは、季語についても、字余りや字足らずについても当てはまることです。「これが季語、ここが字余り、ここは字足らず」と指摘して終わるのではなく、「季語が俳句に必要とされるのはなぜか」「どうしてこれを五音で詠まないのか」を聞いてみる。今、学校では「主体的に考える」「深い学び」ということが言われているようですが、「考える」ことの本質は、ものごとの根底に立ち返る「問い」をもつことだと思います。

*二〇一八年二月二三日、神奈川県・鎌倉にて取材

（構成・編集部）

レポート 全国小中学生俳句大会

主催 季語と歳時記の会
日本学校俳句研究会

二〇一八年三月一一日、神奈川県の神奈川近代文学館にて、「第七回きごさい全国小中学生俳句大会」の表彰式が行われました。

長谷川権さんが代表をつとめるNPO法人

「季語と歳時記の会」と「日本学校俳句研究会」のダブル主催の大会です。

「俳句の専門家と学校で俳句を教えている先生が協力して選句と運営にあたるところがこの大会の大きな特徴です」——日本学校俳句研究会代表で、もと小学校の校長先生、哭泣亭の俳号をもつ小山正見さんの言葉です。

第七回大会は、全国から二四五五〇句の応募があり、一二七六句が予選を通過。予選通過作品はすべて冊子に掲載されています。当日は、大賞、特選、入選、佳作の小学生中学生とそのご家族が集い、近代文学館のホールはほぼ満席状態。賞状授与のあとでは、『ランドセル俳人の五・七・五』の著者で、現在高校一年生の小林凜さんのゲストトーク、選者の先生方の講評座談会と続きました。

*

「山びこを返してくれた夏の山」——この句で大賞に選ばれた福田幸純さん（お茶の水女子大学附属中学校二年生）が俳句について話してくれました。

「季語が難しいです。思いついた言葉が季語なのかどうかがわからないことがあります。この句は林間学校の体験を詠んだものです。が、『山びこ』が夏の季語のような気がして、季重なりにならないように、最初は『山びこを返してくれた立山や』としていました。でも調べてみると季語でないことがわかり、『立山や』を『夏の山』に換えたんです」

「俳句はリズムが大切だと思います。五七五でつくっているのに小説の言葉のようになってしまふことがあります。『俳句のリズムになつてない、俳句のリズムがつくれてない



な』って思うのですが、なかなか難しくて」「俳句の魅力は〈短さ〉にある」と福田さんは言います。「短いから、小説に比べて自分が好きかどうかがすぐわかるし、いいなと思ったら、短いのでその分、一つの作品に時間をかけていろいろな解釈を楽しむことができます。こういうところに俳句のよさやおもしろさがあると感じています」

子どもの俳句というと、小学生のみなさんの楽しくほほえましい句に目が向きがちですが、中学生による中学生のための俳句の可能性を感じさせる福田さんの言葉でした。

(文・編集部)

第八回大会の投句期間は、二〇一八年五月一日～一月三〇日。投句の宛先など詳細は、「季語と歳時記の会」までおたずねください。
<http://kigosai.sub.jp/>



ひとめで
みえる

平成28年度版『現代の国語3』「俳句の世界／俳句十句」(54ページ)

授業展開アイデア

※ここでは、学習指導書とは別の展開例を紹介しています。

1・2時

ポイント

発問 『導入』

今日から俳句の学習に入ります。

- *1 「俳句」と聞いて、何を連想しますか？
- *2 どんな俳句を知っていますか？

- 学習の動機づけとともに、生徒たちの俳句に関する知識や関心の度合いをつかむ問い合わせである。

- *1では、「思い浮かんだもの・ことを、形容詞、名詞、動詞のそれぞれで答えてください」という形で問うことも考えられる。

【例】
〔形容詞〕短い／難しい
〔名詞〕小林一茶／夏井いつき／プレバト／
〔動詞〕お年寄り／お茶／林間学校／短冊／季語／五七五
〔動詞〕数える／詠む

- *2では、空欄のある俳句を提示しながら進めてもよい。

柿くへば鐘が鳴るなり

法隆寺【正岡子規】

菜の花や月は東に日は西に【与謝蕪村】

号泣しながらも三輪車は漕いでいる【又吉直樹】

- クラスやグループで互いの考え方やイメージを交流し合う。

- 一七音の短い言葉の中に感動やものの見方・感じ方が込められていることなどを、これまでの学習体験を振り返り、共有しながら確かめる。

教材の特徴・ 学習指導のポイント

俳句は、言葉による説明を極限まで削ぎ落とすことによって生まれる「余白」を特徴とします。読み手がその余白を埋めることでじめて、作品の世界が浮かび上がるもの、完成するものといえます。余白には解釈の多様性を受け入れる広さや深さがあり、読み手としての学習者は想像力、思考力を駆使して、創造的な読みを楽しむことができます。同時に、この過程には独善的な読みを招く危険性も含まれます。独善的な解釈や知識不足などによる誤読を放任するのではなく、「説得力のある解釈」を求めて読み深めていくことは指導上の大きなポイントと

学習目標 学習指導要領対応項目

- 俳句のきまりや特徴を理解して、作品の内容を捉える。
- 語句の意味や表現の効果を考えながら、俳句の世界を読み味わう。

評価標準

- 国語への関心・意欲・態度
- 俳句のきまりや特徴を理解して内容を捉えようしたり、俳句の世界を読み味わうとしたりしている。
- 読む能力
- 俳句のきまりや特徴を理解して、作品の内容を捉えている。
- 語句の意味や表現の効果を考えながら、俳句の世界を読み味わっている。
- 言葉についての知識・理解・技能
- 言葉の選択や使い分け、表現の効果を考えながら読み、語感を磨き語彙を豊かにしている。

発問

それでは、教科書54ページ「俳句の世界」を読んでいきましょう。

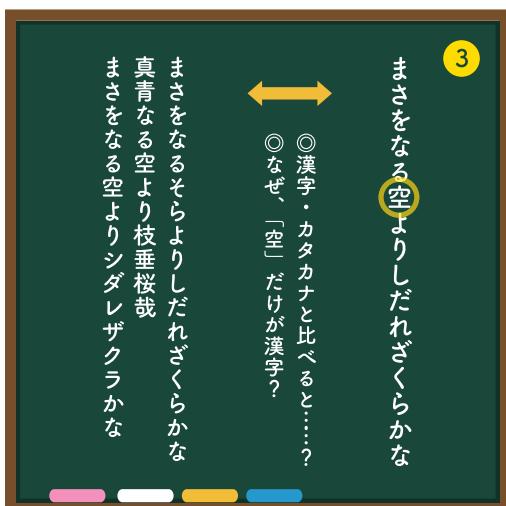
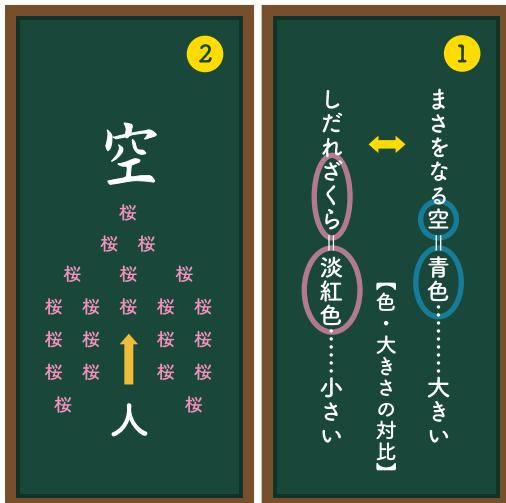
ポイント

- 俳句が四季の変化に富む日本文化の中で生まれた、自然や人生を歌い上げる定型詩の系譜にあることを押さえたい。
- 「まさをなる…」の句について、表現の工夫や効果に着目しながら鑑賞する方法を学習する。

【課題例】

- ①句の中から「対比」の関係にあるものを取り上げよう。
 - ②作者（この句を詠んだ人物）がいる位置（場所）を推測しよう。
 - ③文字の工夫やその効果を考え、作者の意図や作品の世界を捉えよう。
 - ④「切れ字」に着目して、句の中の感動を読み取り、詩の世界を味わおう。
- *参考→「俳句における『間』」本誌2ページ

《図解・板書例》



なります。
説得力のある解釈を追求し、それを評価・担保する機能をもつのが、「言葉の知識を得し探求する場」「遊び合い、話し合いの場」——すなわち、季語や切れ字を含め厳選された言葉を拠り所にして知識・情報を獲得、共に、互いのイメージや解釈について論議するプロセスです。

俳句という文学形式の特徴を生かした、作り手（作品）と読み手、読み手と読み手による「協働的な読解」「対話的な鑑賞」を積極的に取り入れた実践は、俳句という言語文化のすばらしさとともに、「主体的・対話的で深い学び」の本質を、学習者に体感させる教育的価値を含むものとなります。



3・4時

発問

教科書58・59ページの俳句について、それぞれの俳句に込められている情景や心情を捉え、鑑賞しましょう。

【俳句鑑賞のポイント】

- ① 繰り返し音読し、リズムや言葉の響き合いを確かめる。
- ② 季語に着目して、その季語や季節がもつイメージをふくらませる。

例

『菜の花』——明るい／のどか／青空／黄色と黄緑色／一面に広がる気持ちのよい空間／

心地よい風／小刻みに揺れる細い茎と小さな花たち……

『春』——新学期／入学式／何かをはじめたい気分／出会いと別れ／ドキドキワクワク／明るい／おだやか／のんびり／元気／うららかな日差し／のどかな景色／薄着／遠足／雪解け／新緑／チューリップ／桜／新緑……

- ③ 「切れ」(切れ字など)を手がかりに、その俳句が秘めている時間的な「間」、空間的な「間」、心理的な「間」に着目し、感動の深さや感性の鋭さを味わう。
- ④ 書かれていないものを含め、風景や人物などについて、色・形・表情・声や音・匂い、手触りや温度などを想像しながら作品の世界を広げる。

ポイント

〔鑑賞のポイントをつかむ〕(『現代の国語1』「鑑賞文」167ページ)

参考にしてもよい。

- 次のような思考(法)を意識的に活用することも考えたい。

〔比較〕例 「大路の春」 $\uparrow\downarrow$ 「海辺の春」「山路の春」／「万緑」緑 多 $\uparrow\downarrow$ 「菌」白／「一本」／

「芋の露」小 $\uparrow\downarrow$ 「近」大 $\uparrow\downarrow$ 「連山」大 $\uparrow\downarrow$ 遠／「星」大 $\uparrow\downarrow$ 遠 $\uparrow\downarrow$ 「林檎」小 $\uparrow\downarrow$ 近／「星空」暗 $\uparrow\downarrow$ 「天上」自然 $\uparrow\downarrow$ 「店」明 $\uparrow\downarrow$ 地上／「人工」

*参考

○「切れ」と「間」について
学習指導書「読み方を学ぼう」活用ガイド(45ページ)
コラム「『隠された意味』と文化」

教科書(20ページ)「間の文化」
本誌(2ページ)「俳句における『間』」

【仮定】もし「菜の花」が「向日葵」「チューリップ」だったら／もし「夏の旅」が「秋の旅」

だったら／もし「何もかも散らかして発つ」が「部屋中を散らかして発つ」だったら／もし「林檎」が「リンゴ」「りんご」「葡萄」「蜜柑」だったら、句の印象や作品の世界はどう変わるか。

【関連づけ】例「しあわせ」という心理状態と「黄色（色）」がもつイメージ・象徴／初

夏の草木の生長（自然の生命力）と幼児の歯の成長（子どもの生命力／「いくたびも…」の句と病床の子規／「分け入つても…」の句と山頭火の旅

その他の活動例として……

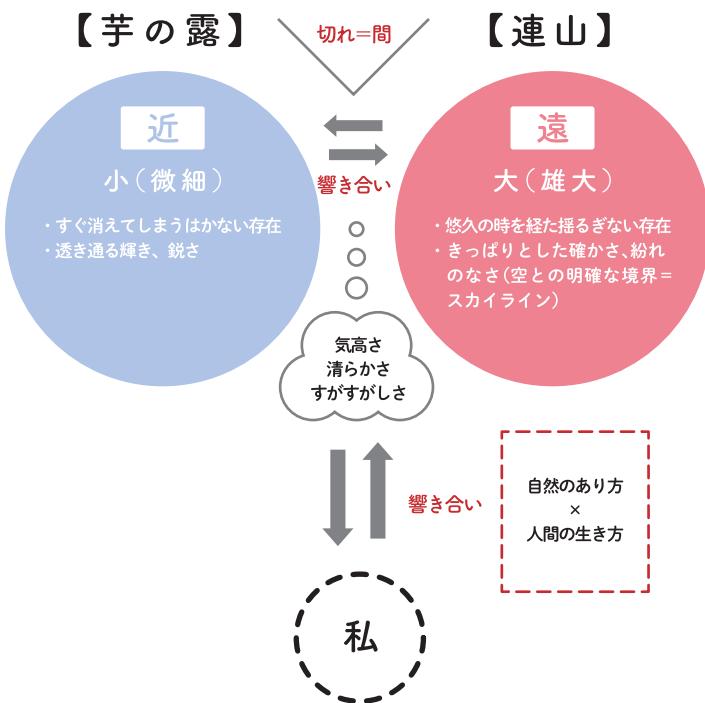
- 1 【個人】俳句を一つ選び、その俳句から、
短い物語を創作する。

- B A 短い物語を創作する。
一枚の絵や写真をイメージする。

《図解例》

芋の露連山影を正しうす

飯田 蛇笏

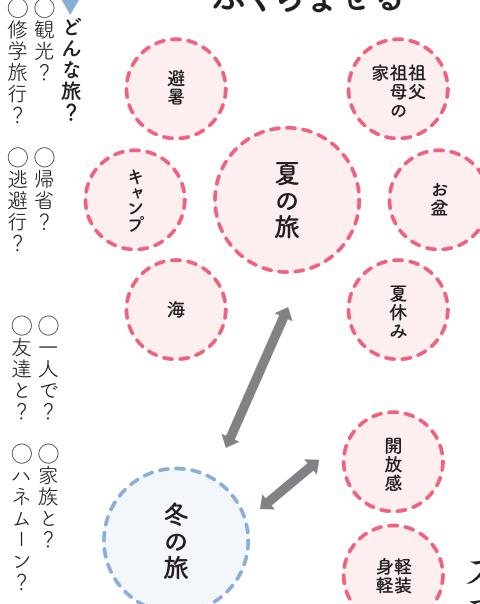


心境に迫る

- 部屋?
▼なぜ「散らかして」なのか?
○○あわてている?
○だらしない性格?
○○自分の心?

「夏の旅」のイメージをふくらませる

何もかも散らかして発つ夏の旅
大高翔



- 2 【グループ】「一」の中から作品を選び、
グループで、物語の一場面を演じる。
絵や写真を身体で表現する。

A案 発問

資料編240・241ページ（『現代の国語3』）には江戸時代に活躍した四人の俳人の俳句が紹介されています。気に入った（気になった）俳句を一句選んで、鑑賞しましょう。

ポイント

- 9つのグループに一句ずつ割り振り、グループ学習（15～30分）からクラス全体の交流（1分間プレゼンテーション×9グループ）へとつなげる活動も試みたい。
- ここで扱わない場合は、「おくのほそ道」（『現代の国語3』118ページ）の学習と関連させてもよい。

B案 発問

皆さん、○○句会へようこそ。今から、出句されたすべての俳句の一覧を配ります。作者名は入っていません。この中から、いいなと思った俳句（自分以外のもの）を一人五句選んで印をつけてください。

ポイント

- 事前準備として、
 - ①「句会をひらこう」（『現代の国語3』62・63ページ）を読み合わせておく。
 - ②一人につき一句（二～三句でも可）をつくり、提出させる。
 - ③全俳句をパソコンに入力し、順不同で一枚の紙に配置する（各句の下に○○などを書き入れるスペースをつくっておく）。用紙は生徒の人数分プリントアウトしておく。
- 当日は「句会をひらこう」の「3」「7」を行う。「3」（選句）を宿題にしておき、「4」（披講）からはじめることが考えられる。

三省堂は授業に役立つさまざまな 学習指導プログラムをご提案いたします

SNP

サポート・ネットワーク・
プログラム
のご案内

デジタル教科書



- [国語・書写] ● 指導者用デジタル教科書
[国語] ● 学習者用デジタル教科書



学習辞書

- 『例解新国語辞典』
●『例解新漢和辞典』など



教師用指導書

- [国語]
● 学習指導書【教材研究と学習指導】
〔読み方を学ぼう〕活用ガイド
〔データ資料DVD・CD〕
● 学習指導書【朱書き編】
● 学習指導書【朗読CD】
[書写]
● 学習指導書

生徒用教材

- 『完全準拠 ワークブック』
●『完全準拠 実力アップ問題集』
●『完全準拠 教科書ガイド』

教科書

- [国語] ● 平成28年度版『現代の国語』
[書写] ● 平成28年度版『現代の書写』



国語教育 情報誌

「ことばの学び」



三省堂教科書・教材サイト

<https://tb.sanseido.co.jp>



三省堂教科書・教材サイトでは、小学校・中学校・高等学校の先生方へ向けたWebコラムや、日々の授業に役立つワークシートを掲載しています。Webコラムでは、最新の教育情報や学校の「今」、これからの方針が目指す方向性など、多彩なテーマを取りあげていますので、ぜひ一度ご覧ください。



現代俳句大事典

俳句を調べる、詠む、読む、鑑賞する
俳句愛好者、実作者、図書館必携の一冊

俳人・評論家約1,000人、事項約500項目。各俳人の略歴、作風、句集・俳書、代表句鑑賞、参考文献ほかを詳述。代表句1,000に鑑賞と季語・季節も明示。協会、結社を超えて、現代俳句界の総力を結集した、我が国初の本格的・体系的大事典。

稻畠汀子・大岡信・鷹羽狩行 監修

〔普通版〕

2005年 A5判 768ページ 6,800円+税 ISBN 978-4-385-15421-3

〔普及版 朗読CD付き〕

2008年 B6判 768ページ 4,800円+税 ISBN 978-4-385-15423-7



ホトトギス新歳時記 第三版



稻畠汀子 編
2010年第三版
A6変型判 1,040ページ
4,200円+税
ISBN 978-4-385-34275-7

五七語辞典

約4万の五音七音表現をキーワードで分類した画期的辞典。



佛済健悟・西方草志 編
2010年改訂
四六判 448ページ
2,000円+税
ISBN 978-4-385-36427-8

生き方としての俳句 句集鑑賞入門



岸本尚毅 著
2012年 四六判 304ページ 1,800円+税
ISBN 978-4-385-36583-1

ふつうの暮らしを送っている人間にとって、俳句を詠むことにはどんな意味があるのか。虚子門（「ホトトギス」）の俳人たちの生き方とその句集に俳句表現の秘訣をさぐる。「句集」鑑賞の新しい手引書。

株式会社三省堂

「教科書・教材サイト」<http://tb.sanseido.co.jp>

〒101-8371 東京都千代田区神田三崎町2-22-14 03-3230-9411(編集)・9412(営業)

- 大阪支社 〒530-0002 大阪市北区曾根崎新地2-5-3 06-6341-2177
- 名古屋支社 〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-21-31 協和丸の内ビル2F 052-953-9211
- 九州支社 〒810-0012 福岡市中央区白金1-3-1 092-531-1531
- 札幌営業所 〒060-0042 札幌市中央区大通西15-2-1 ラスコム15ビル3F 011-616-8722